

オーナーblog 第6話 「志望校合格を生み出す条件とは」 (2023.6.18.)

大リーガーになる、医者になる、金持ちになる…、その人の夢や希望なら“やる気”という努力のエネルギーが生まれやすい。“理にかなった”トレーニングを続ければ、目標に近づくことができるだろう。しかし、「成績や順位を上げたい。」というのが、親から望まれている期待だけなら、本当のやる気にはつながらない。

公立中学で、平均60点のテストで5教科合計を400点にできる能力をもった中学生は、全体の何割くらいいるだろうか。“理にかなった”努力をすれば、3割程度は到達できるのではないだろうか。体調を崩すくらい頑張れば、半数は実現できるのではないかと思っている。

“理にかなった”とはどのような学習方法か。入試問題に必要な知識・解き方・時間配分の習得と言える。従順な生徒が洗練されたカリキュラムをするならば、毎回の課題を徹底マスターしていけば良いことになる。しかし、一人として同じ受験生はいないのであるから、同一カリキュラムで全員が満足できるはずはない。たまたまシステムとの適合率が高い対象がいるかも知れないが、多くの対象にとっては、自己調整能力、つまり未来と過去をイメージできる“大人の脳”、が必要とされるのである。子どもの脳は、“今ここにいる”心身にとって健康なそれと言える。喜怒哀楽が素直に表せて、喧嘩もするがスッキリもできる。大人の脳は、目標に囚われ、修正を繰り返し、不安な感覚を創り出させて自分に課題を強要する。思い起こしても受験勉強は“暗いトンネル”のイメージがある。このトンネルに入る覚悟が中3夏休みではなく、中1から夢と希望をもって健全に軌道に乗れたら、『幸運』である。